



## 歯周治療とインプラントのメンテナンスに、 根拠と自信をもって取り組むために！

月刊「デンタルハイジーン」別冊  
 臨床の“？”が“！”に変わる！  
**ペリオ&インプラントの疑問とエビデンス**  
 大月基弘 編著

AB判/136頁/定価 3,850円（本体 3,500円+税10%）/医歯薬出版（2024年5月）

臨床においては、「このような場合はどうしたらよいのだろうか？」とつねに悩みが尽きません。また、「思ったような結果にならなかった」と後悔することも多々あります。そのようなときは、学会や講演会、勉強会などで疑問や悩みに関連する話を聞いたり、専門書を読んだりすると解決することがあります。こういった行動は疑問の解決のみならず、専門的な知識の向上や、臨床における自身の知識や技術の再確認にもつながります。

本書は「臨床の“？”が“！”に変わる」というタイトルが印象的です。臨床は“？”が“！”に変わると楽しくなり、自信につながっていきます。さらに、自信をもって患者さんと接することで患者さんのモチベーションが向上し、また臨床が楽しくなってくるのです。

歯科診療にエビデンスが求められるいまの時代においては、歯科衛生士も論文を読み、自分が行っている治療やケアの根拠を知ることが望ましいと思います。しかし、たとえば原著論文が英語の場合には読むハードルが一段と上がりますし、「臨床のちょっとした疑問を解決するために論文を読むのは……」と躊躇する歯科衛生士も少なくないのではないのでしょうか。かくいう私もそのうちの1人です。

本別冊では、「歯周組織再生療法が予定されている場合、SRPはあまりしないほうがよって本当？」「インプラント患者さんへのフッ化物製剤の応用は害があると聞きましたが、本当ですか？」など、ペリオ（歯周治療）とインプラントに携わる歯科衛生士なら誰もが疑問に思うことが、項目ごとにQ&A形式でわかりやすく解説されています。これらを読んでいると、多くの歯科衛生士が同じ疑問を抱え、解決の方法を探していることがわかります。

何よりも、疑問に対する答えがエビデンスと臨床経験の両面から解説されているところがうれしいところです。また、実際の臨床症例とともに解説されているので、自分の臨床に結びつけて理解しやすいことも特徴です。

さらに、本別冊は「臨床でどうする？」や「DH's Eye」といったコラムも掲載されています。この内容が「そうそう、ここが悩むポイントなんだよね」と思うものばかりで、コラムを読むと、「なるほど、こうするのか！」と解決すると思います。それだけ、本書は身近な臨床の悩みに寄りそっています。

ペリオとインプラントに携わる歯科衛生士は、本書を読むことで臨床の自信がつくと思います。ぜひ手に取っていただきたい1冊です。